

## 第1期南丹市地方創生戦略の総括(案)

令和2年10月13日  
南丹市地域創生会議事務局

## 1. 基本目標に設定したKPIの達成状況

| 目標達成度            | 判定 | 該当するKPI  |
|------------------|----|--|
| 達成率 100%以上       | A  | 1-1 企業誘致数(工場、サテライトオフィス等含む)<br>2-1 転入者数<br>2-3 観光入込客数<br>4-2 防災の面で安心して暮らせるまちだと感じる(市民意識調査) |
| 達成率 80%以上~100%未満 | B  | 3-3 合計特殊出生率<br>4-1 南丹市が住みやすいと感じている市民の割合(市民意識調査)  |
| 達成率 60%以上~80%未満  | C  | 1-2 誘致企業就業者数(市内在住者)<br>3-1 婚姻数<br>3-2 出生数  |
| 達成率 60%未満        | D  | 2-2 転出者数   |

## 2. 評価指標から読み取れる成果と課題

判定「A」の指標群では、企業誘致数に比例して転入者が増えるなどの関連性が推測されるが、シティプロモーションなどの発信施策によって観光入込客数が増加している状況もうかがえる。また、CATVや行政防災無線の整備などにより、防災面で安心して暮らせると感じる市民が増えたものとする。

判定「B」の指標群には、合計特殊出生率、南丹市が住みやすいと感じている市民の指標があり、相関性が深いことから、施策全般が功を奏したと考える。

判定「C」の指標群では、企業誘致数の目標が達成できた一方で就業者数につながらなかったという課題があり、出生数に直結する婚姻数の増加を促す施策を考えていく必要がある。

判定「D」となった唯一の指標である転出者数は、目標に対して後退する結果となり、本市最大の課題であることが浮き彫りとなった。現在南丹市に住んでいる方が住み続けていただけるための施策を真剣に考えていく必要がある。

### 3. 今後の方向性

- (1) 京都府や周辺市町村との連携し、これまでに交流人口や関係人口を創出してきた取り組みを継続しつつ、新たな魅力発掘にも取り組んでいく。
- (2) 単に企業誘致数を増やすだけでなく、雇用や定住につなげるという企業誘致の目的を再認識し、規制緩和などの手法も検討をしつつ取り組んでいく。
- (3) 転入者が増える一方で転出者も増えるという「転出超過」の状況が続いているため、東京一極集中から地方への人の流れを汲み取るような施策や、デジタル化への対応など快適な田舎暮らしを定住者に提供できるような施策など、コロナ時代に合った市民サービスに取り組んでいく。